

私たちの活動や意見を仲間で共有します。
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2023年5月15日 第375号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//tutiuraheiva.web.fc2.com/

“ゆっくりいそげ” 慌てず、焦らず、諦めず

2023憲法フェスティバルで、伊藤真弁護士

「勝手に決めるな「軍拡」「増税」武力で平和はつukれない」

5・3憲法記念日・水戸、4年ぶりの屋外開催

憲法記念日の5月3日、「憲法フェスタ」が4年ぶりに野外で開催されました。

水戸市千波公園に「勝手に決めるな「軍拡」「増税」武力で平和はつukれない」の熱い思いが結集しました。

テント交流企画、水戸工業高校ジャズバンド、水戸藩YOSAKOI連が競演。伊藤真弁護士が「『戦争する国』づくりと憲法～私たちにできること～」と題して記念講演を行いました。

伊藤弁護士は「憲法9条が本来めざす理想とはかけ離れた現実が積み上げられている」として、岸田政権下の危険な戦争準備の実態を解き明かしました。最後に、今私たちに必要なのは自立した市民を目指すこと、“ゆっくりいそげ” 慌てず、焦らず、諦めず、一步一步が大

切、と訴えました。

この日、東京集会(有明防災公園)に2万5千人が結集するなど全国で多彩な行動が展開されました。



伊藤真弁護士



水戸藩YOSAKOI連



BLUE BEGINNERS-水戸工業高校ジャズバンド

ご案内・土浦

土浦憲法共同センター 次回行動5/19

5月街頭アピール行動

憲法9条生かした平和外交を！
平和も暮らしも壊す、大軍拡・大増税許さない！

5月19日(金) 午前10時～
ケーズデンキ真鍋店前

6/18 土浦平和の会第30回総会

講演 「茨城における平和運動の歴史と展望」

講師 伊達 郷右衛門 さん、 県平和委員会元代表理事、百里の会会長

6月18日午後、土浦平和の会は第30回総会を開催します。も県平和委員会元代表理事の伊達郷右衛門さんが「茨城における平和運動の歴史と展望」のテーマで記念講演を行います。一貫して茨城県の平和運動の最前線で活躍されてきた伊達郷右衛門さんとともに、これからの平和運動について、ご一緒に考えましょう。

6月18日(日)13:30～ ワークヒル土浦

だてごうえもん

第1部 記念講演:伊達郷右衛門 さん

第2部 土浦平和の会第30回総会

参加費無料。会員以外の方の参加大歓迎

伊達 郷右衛門さんのこと

保守王国茨城の地で、800人近い会員と、県内40地域に基礎組織を持ち、草の根からの平和運動を展開している茨城平和委員会は組織的にも活動面でも全国的にも高く評価されています。

県平和委員会の結成当初から携わり、その発展に尽力した伊達さんの存在は極めて大きいものがあります。講演では伊達さんの豊富な体験をもとに、またエピソードを交え茨城の平和運動の歴史や特徴、さらには、今後の展望などについて語っていただく予定です。また、平和運動のみならず県内の労働運動、沖縄との連帯、百里基地反対闘争などについても触れていただく予定です。



世界に恥ずかしい岸田政権の姿

憂慮すべき報道が世界を飛び交っている

テーマは少し重なりますが、二つの投稿が寄せられましたので、紹介します。

米誌タイムが岸田首相の特集記事を公開しました。表紙では「岸田氏は数十年にわたる平和主義を放棄し、日本を真の軍事大国にすることを望んでいる」と断じています。記事では、増大する中国の影響力を抑止しようと狙う米国の求めを受けて「岸田氏は世界第3位の経済大国日本を、それに見合った軍事力のある大国にしようとしている」と分析しています。安保3文書について「彼は昨年12月に、第2次世界大戦後最大の軍拡を公にした」と触れています。併せて日本の平和憲法や、「核兵器のない世界」を目標とする岸田氏の姿勢と再軍備が相いれないという見方があることも指摘しています。

広島の被爆者サーロー節子さんが、「岸田首相は『核兵器のない世界』に向け取り組むこと

が最優先課題と言ったが、現時点では、彼は私たちを騙していると思う」と語り、岸田首相の軍拡路線に警告を発していることも伝えています。(しんぶん赤旗5月12日)



岸田軍拡は中国の進出に対抗する米国の

アメリカにも見抜かれている岸田首相の野心 日本を破滅に導く岸田軍拡政治を許さない

井上 仁志 (土浦平和の会理事)

求めに応じて「相当な額の軍拡」を約束したことは確かですが、自民党の総選挙公約がGDP比2パーセント

の実現に合わせているとも言えるわけで、国内の戦争勢力の圧力に負けている姿勢です。この道を進む岸田内閣を許せば日本を破滅に導くこととなります。国民の多数意見は軍拡路線反対です。この声を国政の場に届けよう。

憲法記念日の5月3日に続き、5月12日の新聞記事は“日本が壊されつつある”との暗澹(たん)たる思いにかられる、胸のふさがる記事であった。

その1.「日本への期待なくなりつつある」

(5/3付「朝日」)

2004年のイラク人質事件の衝撃以降も、イラクで人道支援活動を続けている高遠菜穂子さん。記事では「平和国家としての日本に対する期待はなくなりつつあります」と述べている。現地では「かつては原爆を投下され、軍隊を持たなくなった国と教えられていたが、今の中東の若者たちはそうは考えていないと感じる」。「戦争



しないって言いながら実際には加担している。」と言われたこともあるという。日本政府が集団的自衛権の行使を認め、中東の放送局などは「平和主義を捨てた日本」と報じたと言う。

その2.「岸田氏は軍事大国を望んでいる」

(5/12付「朝日」・「赤旗」)

米タイム紙が岸田首相を表紙とした5月22・29日号で「日本の選択」と題する特集を掲載。「岸田氏は数十年にわたる平和主義を放棄し、日本を真の軍事大国にしたいと望んでいる」と紹介している。さらに「世界第3位の経済大国(日本)をそれに見合うだけの軍事的のある大国に戻そうとしている」と分析している。記事で

こうした岸田首相の姿勢を批判する動きがあることも報じてはいるが、あまりに衝撃的な報道である。

この二つの報道に、「変えられつつある日本の姿”

を見る辛さと怒りが錯綜する気分を抱いた国民も多いのではないだろうか。いや“多く”なければあまりにも危険だ。「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」という憲法前文の精神に立って、平和を求める様々な運動に献身してきた諸先輩の教えに学び、新たな決意で“戦争する国づくり”に対峙しなければならない。

日本が壊されていく

軍事大国化突き進む岸田政権にブレーキを

大滝 誠 (土浦平和の会理事)

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」(毎月5、15、25日発行)：月額593円(送料含)

